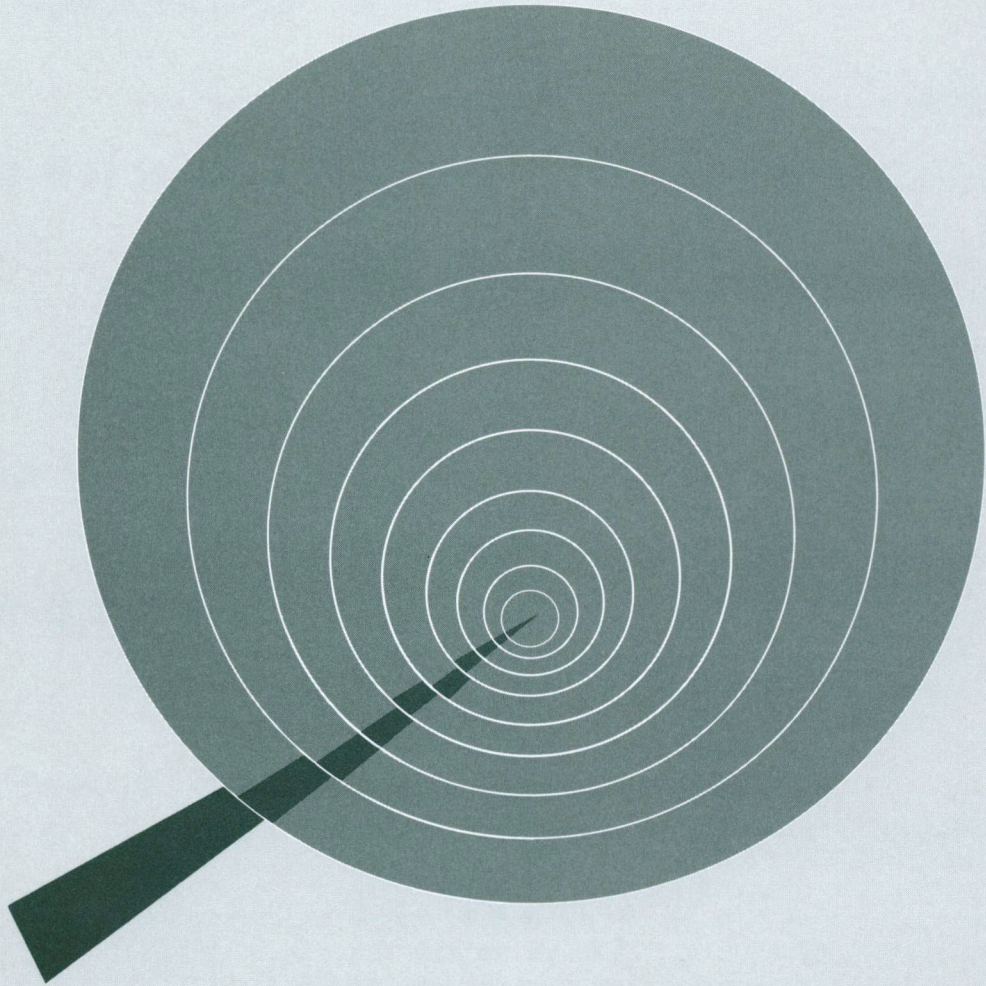


PRO MUSICA NIPPONIA

日本音楽集団

第133回◆定期演奏会

創立三十周年記念・春の総合定期



1994年5月26日(木) 午後7時開演
朝日生命ホール

[主催] 日本音楽集団
〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302
TEL 03-3378-4741 FAX 03-3376-2033

[制作協力] 奈良音楽事務所

プログラム

1. デイヴェルティメント (1969年)

佐藤 敏直 作曲

[笛] 藤崎 重康 [尺 八] I米澤 浩・石田 忠史 II竹井 誠・加藤 秀和
[三味線] 太田 幸子・田中悠美子
[箏] I熊沢栄利子・佐藤 里美 II桜井 智永・高橋はるな
[十七絃] 宮越 圭子・外山 香
[打楽器] 黒坂 昇・杉浦 邦雄
[指揮] 稲田 康

特別記念演奏

2. 子供のための組曲 (1964年)

長沢 勝俊 作曲

[尺 八] I宮田耕八朗 II坂田 誠山 III横山 勝也(客演)
[三味線] 杉浦 弘和(客演)・[琵琶] 半田 淳子(客演)
[箏] 白根きぬ子・坂井 敏子 [十七絃] 砂崎 知子(客演)
[打楽器] 田村 拓男・西川 啓光
[指揮] 長沢 勝俊

—— 休 憩 ——

3. 秋 の 曲 (1980年)

三木 稔 作曲

[尺 八] 坂田 誠山
[二十絃箏] 木村 玲子

4. <四季>ダンス・コンセルタント I

三木 稔 作曲

[笛] 竹井 誠 [尺 八] I藤崎 重康・水谷 雅康 II米澤 浩・石田 忠史
[三味線] 野口美恵子・坂口 美香 [琵琶] 石田 さえ
[箏] I花房はるえ・久東 寿子 II木村 玲子・桜井 智永
[十七絃] 宮越 圭子・大泉 一美
[打楽器] 黒坂 昇・望月太喜之丞・立枝 恵子
[指揮] 田村 拓男

ディヴェルティメント (佐藤敏直 作曲)

尺八と笛が中心に短調風な美しいメロディがくりひろげられる抒情的な曲です。抒情的な中にも激しさを秘めた、若々しい現代感覚のあふれるこの邦楽器のための合奏曲は広く楽しまれており、多くの若い愛好家の手でたびたび演奏されています。

1969年に日本音楽集団の委嘱で書かれ、同年に初演されました。

編成は笛、尺八2、箏2、十七絃、三味線高音、同低音、打楽器2です。

今回は練習時間をたっぷりとることができて、今までになく充実しています。こうやるが一番。箏とか尺八とかのイメージを越えたアカデミックな芸術性が出せれば……そんなものを期待して今回は取りこんでいます。将来は一步先に進めればすばらしいですね。(稲田諒)

子供のための組曲 (長沢勝俊 作曲)

全部で五章からなる組曲です。日本楽器を媒体として、生き生きと描きだされた子供の世界であり、素朴な旅律と律動感あふれるリズムを持ち、新鮮な感動と夢を与える作品です。

1. 軽やかにのびのびと
2. ゆったりとうたう感じで
3. 遊戯唄風におどけて
4. しずかに子守唄風に
5. 激しく律動的に

1964年、日本音楽集団の第一回定期演奏会に初演され、編成は尺八3、三味線、琵琶、箏2、十七絃、打楽器2です。

秋の曲 (三木稔 作曲)

哀しく美しい第三季「秋」に触発されて、二十絃箏と尺八のために書かれました。

全体は二章に分れ、〈序章〉は二つの楽器の対話で進められる *Parlando rubato*。主部にあたる〈秋のファンタジー〉はテンポが速くなり、両楽器に下降音型が特徴的に現われる *Tempo giusto* の主部の間に、やや雅びを尊ぶゆるやかな部分がはさまれています。

1980年、坂田誠山の第一回リサイタルのために書かれました。時間は約13分です。

「四季」ダンス・コンセルタント I (三木稔 作曲)

作曲者が、かつて作曲を担当した舞踊シーンから楽しく易しい旋律を選び、夏の合奏研究会でアマチュアの人たちにも演奏できるよう再編成された組曲。四季を表現する各章は文字通り〈踊る春〉、抒情的な〈水巡る〉、〈秋、そして〉獲り入れの踊りを経て、クールな〈風の花〉が〈エピローグ〉でしめくくられる構成になっています。なお、エピローグの中にカデンツァがあり、出演者総意で即興が加えられるようになっています。

1973年に作曲、初演は同年日本音楽集団第21回定期演奏会(エピローグ未完)で、編成は笛、尺八2、三味線、琵琶、箏2、十七絃、打楽器2~4です。

平素は時間に追われていますが、今回は丁寧な練習ができ、別な顔が見えました。この曲は学校公演の筆頭レパートリーですが今回改めてリフレッシュできたことがうれしいです。伝統楽器で奏でる日本の四季をお楽しみ下さい。(田村談)

日本音楽集団が誕生して30年目を迎えることになりました。
 箏や三味線・尺八・琵琶・笛・太鼓といった日本の伝統楽器たちが、
 それまでになかった新しい形のアンサンブルに挑戦、
 また自らを座付作曲家と称して次々に生み出す三木稔・長沢勝俊氏らの新曲への挑戦を始めたのでした。
 楽譜や音程、指揮を見ること、人の和の問題など、たやすいことばかりではありませんでしたが、
 中身のある発展を伴いつつ30年も続いていることに喜びを感じずにはられません。
 さる3月のアデレードフェスティバル、今秋はニューヨークフィルとの共演（三木稔／急の曲）など
 に対しても団員一人一人が堂々と対応出来つつあることは頼もしい限りです。



代表
田村 拓男

特別記念演奏のメンバーからのメッセージ（五十音順）

〈三絃協奏曲〉〈三群のための形象〉の初演の時に入団いたしました。当時は作曲家とともに全員が新作にとり組み、毎回作品に心ときめかせた青春の時でした。集団では日常茶飯事となった海外公演も、第一回は緊張と感激の連続、解放前の東欧を回ったことも歴史を歩いてきた感が深いです。



坂井 敏子



坂田 誠山

3月の初旬、集団の一員としてアデレードフェスティバルに参加した際、「この団体は真に世界の偉大なアンサンブルの一つであり必聴リストに加えるべきである」という初日のコンサート評に一同大変嬉しく思いました。30周年を迎えるにあたり、このような好評を励みに今後も活動を進めてゆきたいと思います。



白根きぬ子

思えば、創立間もない集団に入団して最初に演奏したのが「子供のための組曲」でした。そして私はいま、同じこの曲で団員としての最後の演奏を終らそうとしています。当日は昔のなつかしい仲間達といっしょのステージです。きっとこの三十年間のいろいろの想いが、私の中を駆けめぐることでしょう。

自分の娘のような若い団員に昔をダブらせ乍ら、聞かせて頂いております。今の団員は、お行儀よくて、皆模範生が多い。それが舞台上そのまま出ているように思います。もっと先人達の音を研究し、一つの音で体がふるえるような、そんな音が集ったらどんなにすばらしいでしょう。もっと冒険を!!
 (団友、1974年～81年に在団)



砂崎 知子



長沢 勝俊

集団の結成と共に生れ、その三十年の歴史を歩みつづけてきた「子供のための組曲」。その一コマ一コマにさまざまな思い出がぎっしりとつめこまれています。人と人との心のふれあいのすばらしさを思わずにはられません。この演奏会が集団にとって、かけがえのないものであることを信じて——。

在団中は沢山のいい音楽家達と、沢山のいい音楽に触れた事が私自身の音楽にとって大変いい刺激になり、いろいろな意味で、私自身を鍛え上げてくれたと思います。

集団が、日本音楽の精鋭達の団体として、今後も益々発展し、更に大きく成長してゆく事を心から願っております。
 (団友、1971年～92年に在団)



西川 啓光

二十数年前の私の入団当初は、メンバーも今のように大勢いませんでしたので、若造だった私も皆さんにまじって演奏させてもらいました。その間に教わったいろいろな事から私がどんなに影響を受けたかは言うに及びません…。本日はその当時に気持ちを戻し、若造にかえて演奏に加わります。

この集団は、経済的な見通しも期待も持たず、ただ情熱によって結成されました。その後、競合又は協力できる団体が特に現れないということは経済的になり立たないことの証でもあることが悲しい現実です。



宮田 耕八朗



横山 勝也

思えば創立当時、月々三千元ずつ積立として第一回の演奏会を開くなど、手弁当の活動から始まった日本音楽集団も三十年の歳月の過ぎるなか、団員一人一人の御努力によって、ゆるぎのない、又邦楽界のバイオニアとしてめざましい活動をされてこられました。いちOBとして心からの敬意をささげます。
 (団友、1964年創立時～71年在団)



杉浦 弘和



半田 淳子

■ 集 団 同 人



村岡 実 (尺八)
大正12年宮崎県に生る。昭和16年都山渡入門。尺八を巻流漢水師に学ぶ。昭和34年より都山渡を離れ、独自の尺八音楽に専念。昭和36年東京尺八三重奏団を結成。主にレフ・アキ・高田・高田音楽などの尺八音楽関係に専心している。



杉浦 弘和 (三絃)
昭和6年3月生れ。昭和28年芸大邦楽科入学。昭和32年芸大邦楽科研究科入学。長唄東宮会発足と同時に入会。昭和33年芸大邦楽科同手現在に至る。昭和34年、36年邦楽コンクール作曲部門第二部一位となる。主要作品「二種の三絃のための習作」等。三絃による二重奏はか。



山田美喜子 (箏)
台北州立台北第一高等女学校卒業。同校家政科および研究科卒業。8才より箏(生田流)を10才より筑前琵琶を学ぶ。のみ宮城道雄門人とする。現在宮城道雄。さらに琴美会を結成し、門人の養成にいそしむかたわら、女学生時代に学んだバイオリン・オルガンを基に現代びわを研究。その奏者として、TVその他で活躍している。



横山 千秋 (指揮)
昭和6年9月青森市に生る。昭和31年芸大卒業。昭和27年より齋藤秀義氏に指揮法を学び、日本青年交響楽団、群馬フィルハーモニー交響楽団を指揮。昭和66年東京混声合唱団を指揮してデビューし、労働・放送などで活躍。その後フリーとなり、邦人作品の演奏、紹介に努めている。現在、日本合唱指揮者協会副理事長。



元橋 康男 (作曲)
昭和11年1月東京に生る。日大芸術学部卒業。第29回新人演奏会に作品「木蓮による歌とピアノのための前奏」を発表して現役にデビュー。主要作品「交声曲」「動脈流」「幻想曲「日本の庭」交声曲「ワリオ」」「尺八とピアノの為の瞑想曲」はか。



横山 勝也 (尺八)
昭和9年12月静岡県に生る。祖父寛村、父藤原に等古流を学ぶ。昭和34年上京福田蘭堂。海軍音楽団に師事。昭和35年N日邦楽育成会卒業。昭和37年世界平和友好祭へのシンポジウムに参加。昭和39年現在代々木に居住所を置くかたわら、演奏活動をしている。東京尺八三重奏団に所属。



上参郷輝美枝 (箏)
北海道小樽市に生る。6才の頃より山田流箏曲を学び、後生田流に転向。昭和31年芸大邦楽科卒業。故宮城道雄・宮城喜代子・宮城道雄松原恵子の各氏に師事。昭和34年ウィーンでの世界青年平和友好祭に参加し、民族音楽コンクールに入賞。



宮本 幸子 (十七絃)
北海道旭川市に生る。旭川にて小田桐雅直氏に師事。昭和31年上京。正派音楽会に入門。昭和35年邦楽コンクール演劇部門3位入賞。昭和38年第一回カイロ国際民族芸術祭参加。現在正派音楽会副会。正派音楽会役員、正派音楽院助教授。



長沢 勝俊 (作曲)
大正12年東京に生る。昭和18年日大芸術学部中退。昭和24年人形劇団アークに入団。人形劇の作曲を始める。後青年の会に入会。大沢和子、清原純二氏に師事。昭和37年人形劇フェスティバル参加のため渡欧。ヨーロッパ各国を遊学。主要作品「合唱曲獲勝りのほまじり」「フルードとピアノのためのソナタ」はか。



鞍掛 昭二 (ディレクター)
昭和8年東京に生る。昭和32年芸大楽理科卒業。音楽自由業を目標に総合的な音楽活動をめざしている。ツイス五重奏団ディレクター。



富田 耕八朗 (尺八)
昭和13年東京都に生る。昭和31年都立世田谷工業高校卒業。昭和36年宮城室内楽団入団。現在自宅で後進の指導にあたるかたわら東京尺八三重奏団に所属。



山内 喜美子 (箏)
石川県金沢市に生る。5才の頃より生田流箏曲を学ぶ。昭和27年芸大邦楽科卒業。宮城道雄、宮城喜代子の各氏に師事。ジャズ・映画音楽などのあらゆる分野に學をとり入れ、レコード・放送などで活躍している。



田村 拓男 (打楽器)
昭和10年島根県に生る。芸大委託生として2年間修業。マリバを柳吹英一氏、打楽器を小宅秀輔氏に、セブンを磯崎剛代子氏に師事。元東京フィル。昭和37年10月独奏会を開く。現在東京マリバ・グループ会員。東京放送音楽家団に所属。



三木 稔 (作曲)
昭和5年3月徳島市に生る。昭和30年、芸大作曲科卒業。池内友次郎、伊藤部郎の両氏に師事。主要作品：「トリニタ・シンフォニー」(NHK芸術祭入賞)「パトリオット」と混声合唱およびオーケストラによるレクイエム「さるだんご」——奄美の旋律による邦楽と混声合唱のためのワグネル「第11回民族祭受賞」はか。

■ マネージメント
東京音楽社
代表 内藤 洋洋
東京都新宿区百人町2-211
大和ビル TEL(368)8060



第1回定期のための合宿先で……(伊勢原市大山小学校)

子供のための組曲／長沢勝俊作曲
第1回定期演奏会 (1964.11.17 第一生命ホール)



ごあいさつ

名誉代表 長 沢 勝 俊

1964年11月17日、日本音楽集団の第1回定期演奏会が第一生命ホールで行われました。この演奏会は同年4月「私達の伝統楽器で現代に生きる音楽を創ろう」という旗印のもとに、流派を超えて集まった14名により結成された日本音楽集団の音を世に問う第一声であったわけです。

それから30年、私達の集団は60名余の大きな団体に成長し、今年30周年をむかえるにいたりました。この間、130回を超える東京での定期演奏会をはじめ、国内各地での演奏会、また20次207回を超える海外公演等、私たちがめざした目標にむかって、多面的な活動を幅広く精力的に展開してまいりました。

当然のことながら、初めての道を歩むものに課せられた試練はきびしく、幾多の試行錯誤をくりかえしながらも、団員の志は高くはげしく燃え、そのエネルギーを結集しながら今日をむかえることが出来たことに大きな喜びを感じております。

これもひとえに集団を支持し激励して下さった多くの皆様のお力添えのたまものと、団員一同心より感謝している次第です。

今年はこの集団結成30周年を記念して、春には集団の現在にいたる歩みの一端と、秋には未来に対する展望を音を通じて御披露したいと思っております。

個性豊かな邦楽器の合奏の分野には、まだまだ魅力ある組合せや手法があるはずで、これらの合奏の可能性をほり起こし新しい息吹を与えること、さらに世代交替が進むなかで創立精神の継承と若い力の導入と育成により、さらに大きな発展と飛躍を21世紀にむけて果せるようつとめたいと思っております。

今後ともよろしく御批判御指導を頂けますようお願い申し上げます。

第133回定期演奏会個人協賛者御芳名

(五十音順・敬称略)

青柳 堯	齋藤 幸山
新井 克輔	佐藤 幸宇山
猪俣 カツ	滝沢 修
有限会社岡野音楽事務所代表取締役 岡野 弘志	永田 穂
小田切 清光	日本の伝統音楽を守る会
舘世 榮夫	氣功尺八 村岡 実
鞍掛 昭二	元橋 康男
グループみずほ 代表 水野 正徳	

30周年を迎えた日本音楽集団

石田 一志

「日本の音楽の伝統を十分に尊重し、その魂を学びとりながら、流派やしきたりにこだわらず、新しい日本の音楽を作るために大いに努力していきたい」、という日本音楽集団の結成あいさつが発表されたのは、1964年4月のことであった。そして第1回定期演奏会は同年11月17日に第一生命ホールに於いて開かれた。その時のプログラムには、大きな展望をもった素晴らしいメッセージが、同人一同の言葉として掲げられている。

「(明治以降の) この自からの進化とヨーロッパの音楽芸術の衰退という、相反する潮流に巻き込まれて日本の現代音楽は、その本来の歴史も土壌も見失ったまま、いかに唐突な転進を繰り返している事でしょう。借りもののヨーロッパの尺度を性急に日本の音楽にあてはめようとしたこの失敗を反省し、私達の国に華々しく音楽の花を咲かせるためには、たとえ百年という長い時計の歯車を止めても、国民音楽の畠を拓き施肥しなければなりません。この緑美しく水清らかな風土と同じく、永い鎖国の歴史の中に沈潜させてはいるものの、誇るべき固有の音楽的な土壌はすでにあるのです。日本音楽集団結成の目的は、そのような素朴な開拓者たる事にあります。……飛鳥やヘレニズムの故事が教えるように、今アジアやアフリカのどこかで偉大な文化の出現が若返りと共に期待されているのです。……私達がこの集団の理念を論じ合っていた時誰かがいいました。それは音楽のルネッサンスだ」と。

60年代といういわゆる前衛芸術の盛んだったころに誕生した集団だが、その芸術運動の特色は、むしろ新しい民族的なロマンティズムを熱く燃やしており、方法や美学はポスト・モダンのそれ

を先取りしているようなところがあった。つまり固定した流派や様式、メディアなどを、その歴史性から切り離して統合し活性化を計る、といった発想が、まずまさしくそうだし、またたとえば、このメッセージのなかにあるたとえば「緑美しく水清らかな風土」という言葉も、都市の芸術として歩んだモダニズムの運動の中からは発せられなかったもので、ポスト・モダンと不可分なエコロジカルな発想が感じられる。

集団の芸術運動も今年30周年を迎えたわけだが、その運動がますます隆盛となっているのは、このような先見の明があったからだと思う。

白豪主義を捨て、東西文化の接点という地事情を生かし、また先住民アポリジニの自然と一体になった文化を自らの基層とみなして新生を図るオーストラリアへの、本年3月の集団の第20次海外演奏旅行が、個々の作品や演奏の評価のみならず、全体として圧倒的な共感と支持を得たのは、オーストラリアの音楽家や音楽愛好家たちが、集団に対して、彼らの理念の具体的な展開を見たからであろう。

本年6月には、日中韓三国の民族楽器によるアジアオーケストラの創立コンサートへの集団の参加があるし、10月にはマズア率いるニューヨーク・フィルとの「急の曲」共演を含むアメリカへの第21次の海外公演が予定されている。

いよいよ日本音楽集団の時代に、世界が向かっているといっても過言ではない。

これらの力を新しい音楽に創り上げていく上で、三木は疑いもなく伝統的なものとは異なった合奏書法を生み出した。各種楽器群に対して沢山の入れ込み方が示されており、西洋のオーケストラ音楽や室内楽、そしてテンポやダイナミックスの変化に対応する三木の解答には更に自在性と個性がある。

しかもその音楽は、借りてきたアイディアを手当たり次第に並べたてたり、特に「ワールド・ミュージック」といった名で流行った文化的加工物などは全く違う。

このようなアンサンブルのために書く一人の作曲家にとっての問題は、他の国々の彼の最も野心的な考えを再現することができる大きな団体が、もしあるにしても少ないことだ。彼の大規模なアンサンブル音楽にとってのただ一つの道は、多分現在では(かなりの数が発売されている)録音物や今回のような演奏旅行である。

最も広範にありうべきこの国の聴衆が、この音楽やその製作者たちを知ろうとした時であることは確実だ。ムジカ・ヴィヴァ(註・オーストラリアにある世界最大の室内楽興業機関)によって用意された

メジャーなツアーは、もし正しく準備されたなら、そのインパクトはセンセーショナルであろう。

今回の「Two Worlds」シリーズの中で、三木の音楽によって供与されたものの中で、少なくとも三つの主な体験が数えられる。

彼のコンチェルト・レイクエムは行列が石を打ちながら進んでくることから始まる。彼によって子供の頃、石の多い河原で遊んだ記憶が呼び戻されたが、それは大地を表わすと同時に音楽的潜在力をもたらず実態としてでもあった。この作品はまた、三木が1960年代の終りにその開発に関与した箏族で最も多い絃数を持つ二十絃箏(註・三十絃がすでにあった)にソロ的な卓越性を与えた。

これらの日本の音楽家たちからに限って、私が受けた表現力に満ちた美しさと多様性の極致は尺八と二十絃箏のための〈秋の曲〉であった。そこでは互いの奏者が詩的な真理と優雅さをもってヴィルトゥオーゾ的に結び合わされていた。かように演奏者たちによって現実化されるに際して、作曲家の貢献は素晴らしいものであった。

第20次海外公演～アデレードフェスティバルの記録 (日本音楽集団関係のみ)

3月1日(土) タウン・ホール

1. 新八千代獅子
2. 鹿の遠音／古典——坂田・藤崎・米澤・添川・竹井
3. ファンタスマゴリア／長沢勝俊作曲
4. 巨火(ほと)／三木稔作曲

3月6日(日) タウン・ホール

序の曲／三木作曲——坂田・木村・田中・オーストラリアン室内オーケストラ
指揮＝デーヴィッド・スタンホープ

3月7日(月) タウン・ホール

1. 秋の舞II／松下功作曲
2. コンチェルト・レイクエム／三木作曲——
二十絃箏＝木村玲子
3. 雨の向う側で／池辺晋一郎作曲——黒坂・前田・
臼杵・田村
4. 古代舞曲によるパラフレーズ／三木作曲——
ソプラノ・ヴォーカリーズ＝エンマ・ライソン

3月9日(水) バンケット・ルーム

1. 風を聴く／新実徳英作曲
2. 秋の曲／三木稔作曲——米澤・山田(明)
3. 邦楽器のための「カタルシス」第3番／下山一二三作曲
竹井・太田・宮越・前田

3月10日(木) タウン・ホール

1. 飛驒によせる三つのバラード／長沢作曲——
坂田・宮越・木村・熊沢・久東
2. 〈四季〉ダンス・コンセルタントI／三木作曲

3月11日(金) タウン・ホール

弥勒効果／吉松隆作曲——日本音楽集団・アデレード・
チェンバーオーケストラ
指揮＝リチャード・ミルズ

3月12日(土) タウン・ホール

1. ディヴェルティメントより第1楽章／佐藤敏直作曲
2. 颯踏／長沢作曲——藤崎・黒坂・前田
3. 琵琶弾き語り・那須与一／古典——田原
4. 凸(とつ)／三木稔作曲

3月13日(日)

急の曲／三木作曲——日本音楽集団・アデレード・シン
フォニー・オーケストラ
指揮＝デーヴィッド・ホルシレイ

(注＝出演者無記名のは、ほぼ全員が出演する大編成の曲)

●今回の参加メンバー

- [笛・尺八] 坂田誠山・竹井誠・藤崎重康・米澤浩
添川浩史
[胡弓] 坂田進一
[三味線] 太田幸子・田中悠美子
[琵琶] 田原順子・山田まゆ美
[箏・十七絃] 宮越圭子・木村玲子・熊沢栄利子・
大島菜穂子・久東寿子・山田明美・外山香
[打楽器] 黒坂昇・前田文男・臼杵美智代
[指揮] 田村拓男
[今回の音楽監督] 三木稔
[舞台監督] 奈良義寛
[舞台係] 蛭海涼
[音楽評論家・取材] 石田一志

日本音楽集団(1993年12月から)の主な活動記録

1993年

- 12月15日(水) 横浜市音楽研究会で演奏 神奈川公会堂
 12月28日(火)～1月6日(木) 客船「飛鳥」船上で演奏会 客船「飛鳥」

1994年

- 1月21日(金) 新春のおくりもの かつしかシンフォニーヒルズ
 1月23日(日) 第132回定期演奏会「第五回邦楽器の祭典」 中野ZEROホール西館小ホール
 ～ワークショップ・邦楽器のそここが知りたい
 1月26日(水) 第132回定期演奏会「第五回邦楽器の祭典」 津田ホール
 ～日本音楽集団30年の活動と、過去4回の邦楽器の祭典から秀作を集めて
 1月27日(木) 第132回定期演奏会「第五回邦楽器の祭典」 バリオホール
 ～日本音楽集団作曲家協議会会員作品による
 2月10日(金) 関市中学校音楽鑑賞会 関市文化会館
 3月2日(火)～14日(月) 第20次海外公演～オーストラリア・アデレードフェスティバルに出演(8公演)
 3月19日(土) 楽しい和楽器(横浜市中区公演) 開港記念会館
 4月13日(水) 甲府おやこ劇場 甲府市総合市民会館芸術ホール
 4月16日(土) 邦楽Live in 雲松院 小机・雲松院本堂
 5月14日(土)～31日(火) かわさきおやこ劇場
 (麻生市民会館・労働会館・幸文化センター・高津市民館・湘南市民シアター・エポックなかはら)
 5月17日(火) 港区立白金小学校音楽鑑賞教室
 5月21日(土)～22日(日) 東京子ども劇場(田無市民会館・町田市民ホール)
 5月26日(木) 第133回定期演奏会～創立30周年記念・春の総合定期

日本音楽集団今後の主な活動予定

- 6月6日(月)～10日(日) 長崎県学校巡回公演
 6月12日(日) 奈良おやこ劇場 生駒市中央公民館
 6月14日(火) 横浜市立南台小学校音楽鑑賞会
 6月16日(木) '94音楽フェスティバル in 東京～みなみ板橋おやこ劇場 成増区民センター
 6月18日(土) 江南楽友協会パープルコンサート 江南楽友協会
 6月19日(日)～28日(火) オーケストラ・アジア公演(日・中・韓民族楽器オーケストラ創立記念)
 (23日/ソウル・26日/徳島・27日/岡山)
 6月26日(日) '94音楽フェスティバル in 東京～きたく子ども劇場 北とぴあ・つつじホール
 7月5日(火) 第134回定期演奏会 津田ホール
 7月7日(木) 中新田町学校公演 バッハホール
 7月8日(金)～11日(月) 中国地方子ども劇場(児島・竹原・東広島)
 7月13日(水)～14日(木) 北信越子ども劇場(小松・七尾・加賀・小松)
 8月30日(火)～9月1日(木) 佐久地区学校巡回公演
 9月8日(木) 第135回定期演奏会 津田ホール
 9月27日(火) 横浜市立犬山小学校音楽鑑賞会
 9月30日(金)～21日(金) 第21次海外公演(アメリカ)
 10月23日(日) 三重県国民文化祭に出演
 11月1日(火) 東京女学館音楽鑑賞教室 渋谷公会堂
 11月4日(金) 横浜市立大岡小学校音楽鑑賞教室
 11月16日(水)～17日(木) 第136回定期演奏会 津田ホール

PRO MUSICA NIPPONIA
日本音楽集団

名誉代表 長沢沢勝俊
代表 田村 拓男
副代表 尾崎 太一
運営委員長 米澤 浩
事務局 霜島 素子
奈良 義寛(参与)
芹沢 英雄

名譽団員

山田美喜子
坂井 敏子
白根きぬ子

団員連名

〈正団員〉
西川 浩平(笛)
西原 貴子(笛)
西原 祐二(ヒチリキ・笙)
宮田耕八朗(尺八)
坂田 誠山(尺八)
三橋 貴風(尺八)
藤崎 重康(尺八・笛)

〈賛助会員〉
滝沢 修
野坂 操寿
鶴田 錦史
古川羽衣山
丹野井成寿
増田 啓子

〈団友〉

青木 誠
秋浜 悟史
荒谷 俊治
稲垣 隆史
小田切清光
川崎絵都夫
川崎 祥悦
菊地 梯子
楠 知子
鞍掛 昭二
鯉沼 広行
坂田 進一
佐藤 敏直
芝 祐靖
清水 義矩

竹井 誠(尺八・笛) 運
米澤 浩(尺) 運
水川 寿也(尺) 運
水谷 雅康(尺)
添川 浩史(尺) 運
畦地 慶司(胡弓・作曲)
野口美恵子(三味線)
太田 幸子(三味線)
箕田 司郎(三味線) 運
田中悠美子(三味線)
工藤 哲子(三味線)
坂口 美香(三味線)
田原 順子(琵琶)
吉村 七重(箏)
花房はるえ(箏・三味線)
宮越 圭子(箏) 運
木村 玲子(箏)
熊沢栄利子(箏)
大島菜穂子(箏)
桜井 智水(箏)

星 旭

杉浦 弘和
砂崎 知子
芹沢 英雄
高野 文子
田嶋 直士
田中 利光
鶴野 和子
戸井 昌造
藤舎 呂悦
藤舎 呂船
仲俣申喜男
半田 淳子
広瀬 量平
福田 輝久
鳳声 晴由

山田 明美(箏)
島崎 春美(箏)
久東 寿子(箏)
佐藤 里美(箏)
尾崎 太一(打楽器)
西川 啓光(打楽器)
高橋 明邦(打楽器・指揮)
黒坂 昇(打楽器)
前田 文男(打楽器) 運
望月太喜之丞(打楽器)
白杵美智代(打楽器)
田村 拓男(指揮・打楽器)
稲田 康(指揮)
長沢 勝俊(作曲)
秋岸 寛久(作曲)
中島 隆(楽器係)

〈準団員〉

石田 忠史(尺八)
加藤 秀和(尺八)
原田富士江(三味線)
山崎千鶴子(三味線)
山田まゆ美(琵琶)
石田 さえ(琵琶)
高橋はるな(箏)
安武由香理(箏)
外山 香(箏)
大泉 一美(箏)
城ヶ崎美保(箏)
中垣 雅葉(箏)
立枝 恵子(打楽器)
杉浦 邦雄(打楽器)

協力団員 伊藤 惣一
地方在住団員 田嶋恵美子
一九九四年四月一日現在

〔本年度委員〕
運印 運営委員

〈日本音楽協会支部〉

関西支部 田嶋直士
水戸支部 斉藤幸山
長野支部 佐藤幸宇山
山梨支部 郷晃
長崎支部 牧山雅楽郁
熊本支部 古川羽衣山
秋山支部 野口裕子
TEL TEL TEL TEL TEL TEL TEL TEL TEL TEL
邦楽の会つばら事務局

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437



(株)アイ・エム・エス ● 楽器リース ● 保管 ● 移動 ● ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻 2-21-25

オリオンシャトー1F

PHONE. 03-3397-2292

FAX. 03-3397-7728